

## 『望ましい富士登山の実現のための指標・水準』見直し案

資料2-2

望ましい富士登山の在り方		現 行			改 訂 (案)			継続可否	考え方 (※水準把握の調査方法)
視 点	区 分	指 標	登 山 口	水 準 (2024年までの 目標値)	指 標	登 山 口	水 準 (2029年までの目 標値)		
17世紀以来の登拝に 起源する登山の文化 的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場 合には、途中の山小屋で宿 泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山 小屋で休息してから山頂で御来光を拝 む登山者の割合	全体	80%以上	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山 小屋で休息してから山頂で御来光を拝 む登山者の割合	全体	80%以上	継続	弾丸登山を抑制するために、引続き山小屋で休息す る登山の方法を推奨していく必要がある (※モニタリング調査アンケート)
	特定された山麓の巡礼路・ 登山道からの登山が行われ ていること	古くからの巡礼路としてルートが特定さ れている吉田口登山道における山麓か らの登山者の割合	吉田	15%以上	古くからの巡礼路としてルートが特定さ れている吉田口登山道における山麓か らの登山者の割合	吉田	15%以上	継続 (未達成)	これまでの水準が未達成であるため、水準達成を目標 に引続き取組を充実していく (※吉田口五合目登山者数カウント)
	山麓の神社・霊地等と登山 道とのつながりが認知・理解 されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士 登山をする文化的伝統を知っている 登山者の割合	全体	50%以上	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士 登山をする文化的伝統を知っている 登山者の割合	全体	50%以上	継続 (未達成)	これまでの水準が未達成であるため、水準達成を目標 に引続き取組を充実していく (※モニタリング調査アンケート)
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割 合	全体	90%以上	富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割 合	全体	90%以上	継続 (未達成)	小委員会の中で議論となったが、 主観的な意見が反映されてはいるものの、これまでの 経過・実績を重視し、引続きモニタリングしていくことと する (※モニタリング調査アンケート)
登山道及び山頂付近 の良好な展望景観の 維持	山小屋・防災関連の施設等 の登山者ための施設が自然 と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道 沿いの景観阻害	全体	非調和的要素が 予見又は発見され ない	自然と調和しない人工構造物による登 山道沿いの景観阻害	全体	非調和的要素が 予見又は発見され ない	継続	自然と調和しない人工構造物による景観阻害につい ては、引続きモニタリングしていく必要あり (※文化財パトロール・レンジャーによる視認、文化財 保護法等の現状変更申請)
	浸食・植生等の変化による 展望景観への影響が抑制さ れていること	五合目以上における登山道の浸食や 植生等の変化による展望景観の変化	全体	負の影響が予見 又は確認されない	五合目以上における登山道の浸食や 植生等の変化による展望景観の変化	全体	負の影響が予見 又は確認されない	継続	登山道の浸食や植生等の変化については、引続きモ ニタリングしていく必要あり (※各登山口五合目から山体を観察)
登山の安全性・快適 性の確保	登山装備・登山マナー等が 理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけ た登山者の割合	全体	15%以下	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけ た登山者の割合	全体	15%以下	継続	主観的な意見が反映されてはいるものの、これまでの 経過・実績を重視し、引続きモニタリングしていくことと する (※モニタリング調査アンケート)
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	0件	人的要因による文化財き損届の件数	全体	0件	継続	人的要因による文化財き損届の件数については、引 続きモニタリングしていく必要あり (※五合目以上の、特別名勝・史跡富士山に係る文 化財き損届)
		—	—	—	(案)登山者の不適切な行動に不満 を感じた富士山関係者の割合	全体	●以下	新規	・登山者の不適切な行動が顕在化していることから、 今後対策を強化していく必要がある ・登山者(＝利用者)の視点だけでなく、それを迎える 側(山小屋等)の視点を取り入れてはどうか ・調査方法等について今後世界遺産アドバイザーと協 議検討し、R6年度に試行調査を実施予定
	過剰な登山者数による混 雑・危険・不満を感じない登 山ができること	吉田口から登山し、誤って須走口に下 山した人の割合(須走口五合目富士山 ナビゲーター対応実績)	吉 田 須 走	0.4%以下	吉田口から登山し、誤って須走口に下 山した人の割合(須走口五合目富士山 ナビゲーター対応実績)	吉 田 須 走	0.4%以下	継続 (未達成)	吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人数は把 握しておく必要がある (※須走口五合目ガイド対応者数)
山小屋やトイレなどの登山者への支援 施設に不満を感じた登山者の割合		全体	15%以下	山小屋やトイレなどの登山者への支援 施設に不満を感じた登山者の割合	山小屋 トイレ	15%以下 15%以下	見直し	これまで「山小屋」と「トイレ」に不満を感じた割合のう ち、不満度が高い一方の数値を記載していたが、両方 の数値を記載しモニタリングしていく (※モニタリング調査アンケート)	
夏山期間を通じて著しい混雑が発生す る登山者数/日*を超えた日数 *吉田口:4,000人/日 富士宮口:2,000人/日		吉田 富士宮	3日以下 2日以下	夏山期間を通じて著しい混雑が発生す る登山者数/日*を超えた日数 *吉田口:4,000人/日 富士宮口:2,000人/日	吉田 富士宮	3日以下 2日以下	継続	入山規制等による来訪者管理を本格的に導入するま では、従来の水準以下を維持できる取組を引続き実 施していく必要がある (※八合目登山者数カウント)	